

量子情報技術研究会の L^AT_EX 原稿様式

日本語副題 (必要なら)

第 1 著者氏名[†] 第 2 著者氏名^{††}

[†] 第 1 大学第 1 研究科

〒 001-1000 第 1 県第 1 市第 1 町 1 - 1

^{††} 第 2 大学第 2 研究所

〒 002-2000 第 2 県第 2 市第 2 町 2 - 2

E-mail: [†]1stAuthor@qit1.jp, ^{††}2ndAuthor@qit2.jp

あらまし L^AT_EX による量子情報技術研究会の予稿原稿のテンプレートファイルです。

キーワード 量子情報技術, LaTeX, 予稿原稿, テンプレート

Format of the Manuscript Submitted to QIT

English Subtitle (optional)

1st AUTHOR NAME[†] and 2nd AUTHOR NAME^{††}

[†] Graduate School of First, First University

1-1 First city, First prefecture

^{††} Second Laboratories, Second University

2-2 Second city, Second prefecture

E-mail: [†]1stAuthor@qit1.jp, ^{††}2ndAuthor@qit2.jp

Abstract This is a L^AT_EX template file for the Technical Report of QIT.

Key words QIT, LaTeX, manuscript, template

1. はじめに

量子情報技術研究会の予稿原稿を L^AT_EX で作成される場合は、電子情報通信学会のクラスファイル `ieicej.cls` を使い、このテンプレート `qit-template.tex` を参考にして、作成してください。

原稿の長さは、A4 刷り上がりで、口頭発表の場合は 6 ページ以内、ポスター発表の場合は 4 ページ以内です。

電子情報通信学会の Web から投稿された PDF が (資料番号を付与し、ページ番号を通し番号に変更する以外は) そのまま印刷されます。Web でアップロードされる前に、必ず印刷してご確認いただくなど、アップロード画面に表示される注意事項をお守りください。

なお、量子情報技術研究会は、第二種研究会なので、予稿の著作権は著者に属します。Web 投稿画面では、学会に移転するように表示されますが、それは適用されませんので、無視してください。

締切後すぐに印刷所へ製本を依頼しますので、締切は「厳守」の程宜しくお願いします。

クラスファイルの詳しい使い方については、`readme.pdf` “電子情報通信学会論文誌 pL^AT_EX 2_ε クラスファイル (ieicej.cls version 1.6) の使い方” の 6 ページから書かれている **2.1.4** 「技術研究報告」を参照してください。

文 献

[1]